

第5回 都心活性化プランに関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

都心活性化プランに関する懇談会

2 開催日時

平成28年10月6日（木）午後1時30分～午後3時30分

3 開催場所

ホテルサンルート広島 2階 響の間

4 出席者

(1) 委員（11名中8名出席）

塚本座長、熊野委員、佐藤委員、下村委員、谷村委員、藤波委員、山田委員、吉田委員
（欠席委員：伊藤委員、野原委員、平尾委員）

(2) 事務局

広島県：地域政策局長、地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員
広島市：都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議事

- (1) 都心の将来像等について
- (2) 施策の方向性等について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者5名 報道関係者1社

8 懇談会資料名

次第

資料1-1 都心活性化プラン（仮称）について

資料1-2 広島広域都市圏の発展を見据えた都心づくりについて

資料2 都心活性化プラン（仮称）の枠組み（案）について

資料3 誰もが集える、にぎわいと交流のまち（イメージ）

資料4 施策の方向性と先導的な取組について

参考資料1 取組一覧（案）

参考資料2 まちづくり交流サロン「都心のまちづくりをみんなで考えよう！」
の開催結果について

参考資料3 広島市議会における都心活性化プラン（仮称）に係る意見等

9 各出席者の発言の要旨

議事

(1) 都心の将来像等について

【塚本座長】

- ・ 皆さんこんにちは。本日はよろしく申し上げます。それでは早速、議事の進行に入らせていただく。
- ・ 昨年度の第4回懇談会では、都心で積極的に活動をされている3名の方からまちづくりに関する考え方のお話を伺った後、事務局より「都心の将来像」、「目指す姿」について説明をいただき、意見交換をさせていただきました。
- ・ その中で都心の将来像として、「誰もが集える、にぎわいと交流のまち」、また都心の目指す姿として「にぎわいと交流を生み出す」「往来しやすく回遊できる」「安全・安心で快適に生活できる」が示された。
- ・ 前回から約半年、期間が空いたが、今年度も引き続き、都心の将来像についての議論を深めながら、それを具体化する取組についても議論していくことになっている。
- ・ とはいえ、前回の懇談会から随分と時間がたっているので、まずは、共通認識を深めていくということで、都心活性化プランの策定の目的などについて事務局から説明をお伺いしたいと思う。
- ・ それでは、資料について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

— 資料1-1、資料1-2に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ 都心活性化プランの目的などについてご理解いただけたと思う。
- ・ 確認を含めて質問をさせていただきたい。広島市基本構想、広島市基本計画、都市計画マスタープラン、広域都市圏発展ビジョン、広島市創生総合戦略の目標年次を教えてください。

【事務局】

- ・ 10年ごとに見直しを行なっている広島市基本計画は平成32年、都市計画マスタープランは平成42年である。
- ・ 広域都市圏発展ビジョンは、取組の期間が平成28年から平成32年までの5年間、広島市創生総合戦略の計画期間は、平成27年から平成31年までの5年間であり、それぞれ毎年所要の見直しを行いながら、取組を進めていくことになっている。

【塚本座長】

- ・ 今の説明でご理解いただけたと思うが、都心活性化プランの目標年次は平成57年で、広島市基本計画、都市計画マスタープラン、広域都市圏発展ビジョン、広島市創生総合戦略の目標年次を越えており、これらの計画の先を見通して、「どのような街にしていくかということ」を議論していく」ということである。
- ・ 前回の懇談会で「都心の将来像（案）」、「都心の目指す姿（案）」をご提示いただいたが、「都心を具体的にどのような街にしていきたいのか」についてのイメージが分かりにくいといった意見も出されていた。
- ・ 今回は、もう少し具体化した「都心の目指す姿（案）」のイメージを事務局で作成していただいている。
- ・ 都心活性化プランの全体の枠組みとあわせて、事務局より内容のご説明をいただき、皆様からのご意見をいただきたいと思う。それでは説明をお願いします。

【事務局】

— 資料2、資料3に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ これまでの懇談会で議論してきた事項について、ある程度、場所や、その場所でどのようなまちづくりを進めていくのかのイメージについても、スケッチを交えながらご説明を頂いたので、ある程度イメージしやすくなったと思う。
- ・ 今、説明があったものが、この時点での、「30年後の被爆100周年を迎える広島の街がこうなっていたらいいな」といった思いを描いた姿だと思う。
- ・ これについてのご感想、ご意見をお伺いしたい。

【下村委員】

- ・ 今、説明されたプランについては、現在進行形で進んでいるものがほとんどではないかといったことが気になる。
- ・ 30年後の孫の時代になった時に、本当にこれだけのプランでいいのだろうか。もう少し夢があってもいいのではないかといった思いである。

【塚本座長】

- ・ 何か、このような夢が描けたらといった思いはあるか。
- ・ または、この中でももう少し強弱があったほうが良いと思うことがあれば、後ほどお伺いしたい。
- ・ 今のようなご意見で結構であるが、どなたかご発言があるか。

【佐藤委員】

- ・ 前回も出てきた事ではあるが、広島でなくてもできそうな「まちづくり」ではないほうが良い。
- ・ 今回はこれだけ絞っていただいたが、「目指す姿」のイメージのタイトル一つ一つに、広島であるべきキーワードを入れたいと思う。
- ・ とても良いのは、「水の都ひろしまにふさわしい水辺」。
- ・ 「復興した広島」「今」を実感できる場、「平和への思いを共有する場」についても、広島らしさがある。もっと強調しても良いと思う。
- ・ 例えば、「歩いて楽しい通り」などは、どういうところに広島の魅力的な店舗が建ち並んでいるとか、もっと広島らしいキーワードで落とし込めると思う。
- ・ 広島らしさが出ているこの3つの目指す姿以外についても、もう少し広島らしさを入れたい。
- ・ 「統一感のある洗練された街並み」など、広島だからこそその統一感がどのような統一感なのかを入れていくと具体化していくと思う。
- ・ 被爆何周年かは分からないが、孫の代まで、広島の平和都市としての在り方が伝えられるような目標がいいなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ それでは、まずは、前回から引き継いでいらっしゃる委員の方を中心にご意見を伺いたい。

【山田委員】

- ・ 3点ある。まず、1点目。前に質問すれば良かったが、資料1-2の広島市創生総合戦略の広島市域で示されているデルタ市街地とデルタ周辺部の関連で、4つの循環が示されているが、例えば、デルタ市街地と中山間地、島しょ部との接点があるわけで、この関連施策としては、どのようなものが出ているのか。
- ・ 2点目は、「都心の目指す姿」を見て感じたことであるが、この懇談会の始めに質問させていただいたが、30年後の広島市の人口動態、高齢化がどれほど進み、若い女性がどれほどいるような構成になっているのかが気になっている。
- ・ これからは、中山間地域だけでなく、むしろ都心回帰などで、都心の高齢化が進むと言われている中で、ここで示されている「具現化したイメージ」が高齢者向けといったようには見えない。
- ・ 果たして、30年後の高齢者が増えた街になった時に、どうあるべきかを考えると、もう少し、憩いや福祉といった視点もあってもいいのではないかなと思う。
- ・ 3点目は、このイメージの中で、そもそも楯円のまちづくりということで、「紙屋町・八丁堀地区」と「広島駅周辺地区」の二つの円、私の認識では、この円をつなぐエリアの対策をどうするのかという議論があったと思う。
- ・ 非常に大変な作業であったが、住民の方々の活動実態を調べていただいたわけであるが、このつなぐエリアに対するイメージが西国街道しか無い。

- ・ 少し難しいかもしれないが、紙屋町・八丁堀地区と広島駅周辺地区を繋ぐこのエリアに何が無く、何がこれから必要になってくるのかをもう少しクローズアップしていくことが必要である。
- ・ もう少し後の施策の内容かもしれないが、楯円全体が盛り上がっていくような、そんなイメージも必要だと思う。
- ・ 1点目の質問だけ回答をお願いしたい。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ あわせて、下村委員、佐藤委員の発言に対しても、事務局から回答があればお願いします。

【事務局】

- ・ まず、質問の中山間地、島しょ部について、資料に記載している4つの循環は、ご発言のとおり、中山間地、島しょ部にはかかってはいないが、これは、デルタ市街地とデルタ周辺部をつなぐ公共交通における循環を示している。
- ・ 中山間地、島しょ部を含めたこの3つの地域はそれぞれ特色をもっており、中山間地、島しょ部は基本的には、自然等を生かしたまちづくりになると思う。
- ・ デルタ市街地は、高次都市機能を集積して、公共サービス等を提供していくエリアであるが、基本的には、中山間地、島しょ部は、自然環境等が享受できるエリアとして展開していき、それぞれのエリアにおいて特色を生かしながら、役割を果たしていくということである。
- ・ そのため、公共交通といった意味では、4つの循環としては示してはいないが、それぞれのエリアの特色を生かしながら、交流を進めていくといった考え方である。
- ・ 「紙屋町・八丁堀地区」と「広島駅周辺地区」をつなぐイメージということであるが、施策の中でもあるが、資料2で示すとおり、「世界中から訪れる人にやさしい交通環境づくり」の中にある「歩行者や自転車を優先する交通環境の整備」ということで、西国街道を含め、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を結ぶネットワークとして、都心部の歩行者ネットワークを作っていきたいといった考えはある。
- ・ 山田委員の2点目の発言であるが、30年後となると、非常に高齢化率が高くなる。
- ・ 例えば、平成52年と言えば、高齢化率が35%程度になると思うが、先ほどの内容と重なるが、都心の中を回遊しやすいということ、「世界中から訪れる人にやさしい交通環境づくり」とは、外国人だけでなく、様々な人に分かりやすいということを考えている。
- ・ 「歩行者や自転車を優先する交通環境の整備」ということで、回遊性の向上やユニバーサルデザインの推進などを盛り込んでいきたいと思っている。
- ・ 下村委員の「夢があること」ということであるが、庁内で様々な取組を検討しているが、それを具現化していくことは非常に困難なところがあり、このような形で示させていただいている。
- ・ いずれにしても、「夢があること」ということをどのような形で示すことができるのかを検討していきたいと思っている。

- ・ 佐藤委員の「広島らしさの強調」ということで、この3つのイメージが好評をいただいたということで、このような「平和の思いが共有できる場所」や「水の都」といった切り口で、なんとか出していきたいと思い、この施策の方向性の4つの中で、例えば「広島ならではの魅力づくり」や、「世界中から訪れる」ということ、また4番目の「安心・安全な生活」ということで、平和というか平穏な生活ということ考えている。
- ・ 今いただいたご意見について、どのような形で「広島らしさ」が表現できるかについては、引き続き検討していきたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 地元ということで、谷村委員からのご意見や実情等をお伺いしたい。

【谷村委員】

- ・ 広島らしさを盛り込むのは賛成である。
- ・ 半年ほど間があいたが、その間に商工会議所でも先月、都心活性化の提言を取りまとめ、来月に市長さんや知事さんにもご提示していきたいと思っている。
- ・ その中では、広島らしさということで2つほど、「平和大通りの魅力の拡充」と、「川の水辺空間の活用」を盛り込んだ。
- ・ この都心活性化プランの目指す姿、施策の方向性など、大きな方向性は一致していると思うので、この実現に向けても一緒にやっていければと思う。よろしく願います。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。挙手がありましたので、藤波委員に願います。

【藤波委員】

- ・ 少し先に進んでしまうが、参考資料3の「広島市議会における都心活性化プラン（仮称）に係る意見等」について目を通して、気になったのが、「将来像にインパクトや広島らしさが無い」といった意見・ご指摘については、改めてその通りだと思った。
- ・ 今回の将来像である「誰もが集える、にぎわいと交流のまち」については、広域都市圏発展ビジョン、広島市創生総合戦略の方向性やビジョンを見ても似ていると思う。
- ・ 同じ地域の話なので整合性は取れていて評価できるが、逆に言うと誰もが思いつく言葉であると感じた。
- ・ だからといってひっくり返せということではない。事務局で、将来像のサブタイトルとして、「世界に広島を発信する」を付けてもらったのは良いと思っている。
- ・ 特に、世界、地域外とのつながりという意味で、これまでは、観光客をメインターゲットとしたつながりを重きに置いた議論をしてきたが、やはり広島という都市がこれから伸びていく、大きくしていくことを考えた時に、何で食べていくかをある程度想定していくべきであると思っている。
- ・ 広域都市圏発展ビジョンを見てみると、どうも視点がやや内向きである。

- ・ 今住んでいる人や、せいぜい観光客を受け入れるとか、この地域が何で食べていくのかをアピールする力が非常に弱いと感じる。
- ・ 観光客が増えていくことはもちろん良いことではあるが、観光だけで食べていける都市は非常に限られている。これは非常に特殊な地域である。
- ・ もちろん、広島がそうではないとは言い切れないが、人口のレベルを考えると、もう少し稼ぐ力がないと難しいだろうと考えている。
- ・ 特にこれからは、人口減少といった動向を踏まえると、日本全体の課題ではあるが、いかに多くの一人あたりの富を生み出すかを真剣に考えていかななくてはならない。
- ・ サービス業、特に観光などは1人当たりの付加価値額が非常に小さいといった問題を絶えず持っている。
- ・ 広島はこれからどのようにして富を生み出していくか。福岡は明確にアジアといったターゲットを見据えて、観光はもちろん、ビジネスという意味でもアジア、大陸を見据えた企業誘致に力を入れている。
- ・ これは良いことか分からないが、大阪は万博を誘致し、札幌はオリンピックを開催するなど、明確に都市間競争を意識した戦略を打っている。
- ・ このような中において、あまり内向きの印象を受けるようなプラン作りに陥らない方がよいと思い、もしその辺を施策の方向性に反映できたらいいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。非常に示唆に富んだ話だと思う。
- ・ それでは、今回から委員に加わった2名の方からご意見を伺いたいと思う。

【熊野委員】

- ・ 広島銀行の熊野です。よろしくお願ひする。
- ・ 今回初めて懇談会に参加させていただき、今までの資料についても見させていただいたが、今回の30年後のイメージという点、どうしても漠としたものに成らざるをえないと思うが、その中でも、かなり見えて来たといった感想を持っている。
- ・ 特に、これからは、先ほど議論にも出てきたが、30年後のイメージということで、人口が減っていく、高齢化が進んでいくといった構造的な問題がある中で、やはり都市づくりということに主眼を置けば、「駅を基点としたコンパクトなまちづくり」がキーワードになってくると思う。
- ・ そうした意味では、後ほどの施策の方向性にもでてくるが、紙屋町・八丁堀地区界隈のまちづくりを進めて行くことが明確に示されているので、イメージすることができてきた。
- ・ 特に広島でいえば、旧市民球場跡地や、サッカー場などのいろいろな動きが出てきているが、これがもう少し動けば、逆に絵にしやすいのかなといった感想をもった。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。せっかくなので、吉田委員もお願ひする。

【吉田委員】

- ・ 国土交通省の中国地方整備局にいますので、少し国土交通省の関係の話をする。
- ・ この計画の目標が2045年ということで、これはちょうどリニア新幹線が大阪まで開通する時期なのではないかなと思う。
- ・ 庁内で話したことだが、これにより、東京と大阪が1時間。それにより、東京、名古屋、大阪の一体感がかなり増してくると思う。
- ・ そうした時、広島のような地方都市はどのようになるのかなと考える。
- ・ ここでも出てきたように、ある程度中枢性が必要なのかなと思う。
- ・ 一方で、先ほど議論に出てきたとおり、福岡のような大きな都市を目指すのではなく、皆さんがおっしゃられるように、他の地域との違いとして、広島らしさを打ち出すといった視点も必要である。
- ・ このような話を日頃から庁内でも話しているが、具体的には何がいいのかは分からない。
- ・ ここに出ているような200万人都市圏構想のようなスケールメリットも必要であるし、もっと広島らしさといった独自性も必要であるといった感想である。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ ある程度ご意見を伺ったところであるが、事務局で今回ご欠席されている3名方からの意見をお伺いしているということで、紹介をよろしくお願ひしたい。

【事務局】

- ・ 3名の欠席委員の方には、事前に資料を見ていただき、ご意見をいただいている。
- ・ まず、この都心の「将来像」についてであるが、資料2の都心活性化プランの枠組みについて、伊藤委員と野原委員からの意見を伺っている。
- ・ 伊藤委員からは、例えば「都心空間のリニューアル」として、霞が関の合同庁舎7号館、霞が関ビルがある辺りの写真を使用しているが、広島の実績ということで、大きな開発の事例として「基町クレド」があるので、こうした写真の使用や、昔から札幌広福等といわれるが、例えばライバルである福岡などの写真を掲げて、「これに負けないぞ」といった姿勢を示してはどうかといった意見をいただいている。
- ・ 野原委員からは、これから人口減少といった縮減時代を迎える日本都市においては、単なる量、例えば交流人口や、消費額などだけで「にぎわい」を捉えるということではなくて、魅力の高さといった質の部分も考えることが大切だと思われるということ。
- ・ 具体的な内容としては、
 - ▶ リニューアルだけでなく、街のリノベーションを活かして、既存建物でも、魅力的な街の要素になるように改修していくこと
 - ▶ グラウンドレベルということで1階部分の（路面）の魅力を高め、開放性のある店舗や入りやすい、使いやすい沿道建物の創出をしてはどうか
 - ▶ 公園や道路などの公共空間について、より魅力ある、市民や観光客の憩いとにぎわいの場の創出を図ってはどうか

- ▶ 水と緑は連携して、回遊性のあるネットワークを創出してはどうか
- ▶ 近世・近代の歴史を大事にして、歴史の「積み重ね」を大切にすることはどうか
- ▶ ビジネス環境創出については、ベンチャーが入りやすくなる、あるいは、市民も含めた小さな経済「こいとなみ」と言われていたが、これを増やすなどの創造的な価値創出の場が必要なのではないか

といったご意見があった。

- また、もう少し「暮らし」の部分、これを位置付けてもよいのではないか。
- 「豊かなライフスタイル」を構築する子育てであるとか、気持ちのよい外部空間、あるいは安心して外出できる環境などの支援整備も必要なのではないか。
- 都心のイメージを創出するという意味で、全体をコーディネートして、多様な意見を調整し、持続性を確保するための経営的視点を持った、全体をマネジメントするための仕組みなどが必要なのではないか。といった意見を伺っている。

【塚本座長】

- ありがとうございます。かなり具体的な貴重なご意見である。
- 今の紹介に触発されて、何かご意見があればお願いします。

【下村委員】

- この度、皆様をご存知の通り、カープが優勝した。この盛り上がりはすごい。
- 恐らく25年ぶりといった影響があるのではないかとと思うが、あの時に広島に来たお客さんは、この200万人都市圏より広い範囲から来訪されており、山陰や四国など、商圏の広さにびっくりするくらいのお客さんが来ている。
- これに関連するが、広島には、広島カープ、サンフレッチェ広島、広島交響楽団の3つのプロ集団が存在している。この活かし方が広島の活性化には非常に重要である。広島ドラゴンフライズといったバスケットボールチームもできた。スポーツと音楽といった切り口も必要ではないかと感じた。
- それと、結節点である京橋界限は、駅から来る場合においては大きなポイントになる。
- 先日市長と話をすると、京橋の架け替えなど考えているようで、この辺りの道路の歩きやすさや、年をとったら電車に乗ろうなんて考えるかもしれないし、ここにもあるように、昔ながらの饅頭屋さんのような魅力を発見しながら歩いていけるような、西国街道の魅力アップを考えてほしい。
- このような話は、この懇談会でもして、商工会議所の中でもしてということで、何とか統一できないかなといった思いもある。
- それと同時に、来街者を増やすといった観点から、広島空港と都心部との利便性のこと。現在はバスで40～50分ほどかかるため、東京から来る人などは飛行機に乗るのが嫌といった声もある。
- 広島に着いたら、またバスに乗らないといけないのかと、こうしたことが広島の魅力を半減する要因となっている。

- ・ そうした意味からは、なかなか難しい話ではあるが、広島空港と広島都心部を結ぶ、一番良いのはリニアで結ぶのが良いが、そんなことにはならないと思う。
- ・ とにかく空港と都心部までのアクセス時間が30分以内となるようにしなければ、国内外から来るお客様に対して失礼である。
- ・ 広島空港がポイントとなって、広島都心部に来て、平和を見て、帰られるということであれば、色々な意味を含めて、ここを何とかしなければならないと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 少し具体的な注文もあったようだが、カーブがこれほどまでに盛り上がったということは、全国の広島を見る目が変わったと思う。

【藤波委員】

- ・ この春以降、広島が全国的に注目されることが非常に多かった。
- ・ 広島という名を聞かない日がないくらい。挙句の果てには、NHKの「ブラタモリ」がロケに来たように非常に注目された。

【塚本座長】

- ・ そうである。このように、この半年間で、全国から見た広島の見方は非常に変わった。
- ・ これらのことを踏まえても、元気のあるプラン（案）にしたいと思う。
- ・ 次の議題もあるので、ここでのどうしてもといった意見があればお伺いするが、無い様なので、次の議題に移りたいと思う。

(2) 施策の方向性等について

【塚本座長】

- ・ それでは、次の議題に移行する。事務局からの説明をお願いします。

【事務局】

— 資料4、参考資料1、参考資料2、参考資料3に沿って説明 —
 (但し、参考資料については、時間の都合上、詳細な説明は割愛)

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 相当盛り沢山の内容であったため、少し整理すると、資料2で掲げた「都心の将来像」、「都心の目指す姿」について先ほど議論していただいたが、それをどのような方向で、手をつけていくかということ。
- ・ その中で、大きく4つの事をやっていきたいということ。

- それで、一つ目が「中四国地方の中核都市にふさわしい空間づくり」、二つ目が「国内外から人を惹きつける広島ならではの魅力づくり」、三つ目が「世界中から訪れる人にやさしい交通環境づくり」、四つ目が「安全・安心で平和な生活を支える環境づくり」。
- この大きな4つの切り口で今後30年間やっていきたいということで、考えられる主な点を整理され、今ご説明をいただいた。
- 具体的には、それを細かく噛み砕く中で、例えば、「中四国地方の中核都市にふさわしい空間づくり」という中では、「都心空間のリニューアルによる高次都市機能の充実・強化」などが掲げられている。
- これと密接に関わる形で示されているのが、「先導的な取組」。
- これは、必ずしも行政だけでやるのではなく、市民や民間の方を含めて取り組んでいくということで整理されているということ。
- 主には行政が取り組まれることが多いとは思いますが、このようにご説明をいただいたところである。
- それでは、先ほどの「目指す姿」のイメージのことも気にしながら、このようなことをこの30年間でやっていけば、皆が目指すべき都心にたどり着くのかということを考えながら見ていただくということで、この全体についてのご意見や、ここで掲げられているキーワードは、目的になるもの、手段になるもの、色々なレベルのことが散りばめられているようなので、そこも含めてご意見を頂ければ参考になると思うので、どなたからでも結構なので、発言をお願いします。

【藤波委員】

- まず、意見ではなく質問であるが、「先導的な取組」は、既に検討している、あるいは実施している取組といった理解でよいか。

【事務局】

- 「先導的な取組」の趣旨について説明する。
- 先ほど、「都心の将来像」、「目指す姿」を説明したが、この「施策の方向性」、「施策の展開」、「先導的な取組」については、この「都心の将来像」を実現させるものである。
- この中で、大きな4つの柱である施策の方向性を具体化するために、大きく寄与する、資するものと考えられるものであり、かつ、先行的に取り組んでいるもの、または早期に取り組もうと考えているものである。

【藤波委員】

- わかりました。
- これについての意見であるが、先ほど「何で食べていくのか」といった話をした中で、この資料4の1ページ目にある施策の方向性1-③「多様な活躍の場を創出するビジネス環境の形成」がポイントになっており、重要であると思う。
- 1-③では、先導的な取組が記載されていないので、具体的な取組については、これからだと思うが、これを具体化していく必要があると思っている。

- ・ この流れの中で、参考資料1の取組一覧（案）であるが、1-③「多様な活躍の場を創出するビジネス環境の形成」の中で取組のメニューが7つほど示されている。
- ・ この記載している取組のメニューはいいと思うが、具体的なことが書かれていない。
- ・ シーズがあって、若い人の頑張りを支援するといった内容だとは思いますが、ここでポイントとなるのは広島の立地であると思う。
- ・ 広島は瀬戸内海に面していて、中四国地方の核となる都市であると考え、この瀬戸内海にある製造業の成長、産業振興に寄与するようなサービス業ないしは製造業の創業支援を意識的に行なっていくことが必要であると思う。
- ・ 先ほど申したとおり、純粋なサービス業、例えば、単なる小売業や飲食業などでは、どうしても一人当たりの生産性、付加価値などが上がってこないといった問題がある。
- ・ せっかく産業集積がある、製造業がある環境の中で、この製造業を押し上げていくことができるサービス業など、付加価値の高い業種など、マーケットをある程度絞った創業支援が必要であると思う。
- ・ 現在の日本は、どうしても製造業がやや停滞しているといった状況はあるが、一人当たりの負荷価値額はまだまだ大きい。
- ・ そうした製造業が集積する地域では、サービス業、特に企業向けにサービスを提供する企業の層が厚いので、一人当たりの負荷価値額はどうしても大きくなる。
- ・ 若い人たちによる起業マインドを、すでに集積のある製造業を押し上げる方向に向けさせる誘導を行なっていくかが重要である。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 藤波委員に質問であるが、今の話は広島地域全体的話かどうか。
- ・ 一方で、広島の都心であったらどうなのかについて、提案や具体的なイメージがあればお伺いさせて頂きたい。都心で行なうとすれば、どのような事が考えられるか。

【藤波委員】

- ・ 都心で行なうとなれば、イノベーションの拠点づくりが重要なのではないかと思います。
- ・ 海外の事例などをみると、エコシステムやスタートアップが重要なのではないかとされている。
- ・ シリコンバレーのように、何もない場所に作るということも一つではあるが、最近のトレンドとしては、大学を中心としたり、あるいは、街なかなどで、新しい人達が集って、新しい価値を生み出していくといった方向に移ってきているように感じる。
- ・ 広島の都心においても、十分にそのような場所を作っていくことが可能であると考えている。
- ・ つまり、広島の都心で言えば、若い人が集う場所、特にターゲットとしては、製造業などの地域の産業支援といった方向でのスタートアップが重要ではないかと思っている。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今のような形で色々ご意見を伺いたいと思う。

【下村委員】

- ・ 若い人の育成という意味では、紙屋町界隈のビルの中に大学等の事務局ができてきている。
- ・ 広島では、広島大学が都心から移転したが、人材育成という意味でも、若い人達が都心に遊びに来るという意味でも、このように大学のサテライトができてくれば、活性化やイノベーションが生まれてくるので良いと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ これは、藤波委員の発言に対する意見なので、あわせてそれ以外での下村委員のアイデアや意見についてもお伺いしたい。

【下村委員】

- ・ 方向性の4については、全国のどこでも一律で、同じようなことを目指しているのので、そうした意味では、もう少し尖った部分を入れていただきたいと思う。
- ・ それと、広島の場合は、路面電車の活用が活性化のポイントになるが、電停の区間が非常に短いため、時間がかかりすぎるといった問題をどうにかクリアできないかと思う。
- ・ ヨーロッパの都市では、路面電車などが早いスピードで走っている一方で、その線路の上を自由に歩行者が歩いているといった風景がある。
- ・ 日本の場合は交通規制等の問題があるが、そのような問題への対処についても考えていただきたい。
- ・ また、ヨーロッパのように、都心には車を入れない環境づくりも施策として必要であると思う。私は車で都心まで通勤しているため、それをされると困ってしまうが、そうしたことも非常に大きなポイントである。
- ・ スイスのチューリッヒなどではよくあるが、路面電車が走る空間を、人が自由に歩いて、電車に乗っても自由に移動できるような環境。広島の都心においても30年後ならばできるかなと思っている。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今のように、例えば30年かけてスイスのあそこみたいになろうというのは、非常に分かりやすい目標である。
- ・ では他にどなたか。

【藤波委員】

- ・ 広島路面電車についての質問であるが、私も路面電車を利用したことがあるが、普通に自動車と同じように信号で止まるが、どのような制御システムになっているのか。
- ・ 最近、バスなどでも、バスが近づくと信号が青になるといった公共車両優先システムが導入されている地域もある。
- ・ 広島路面電車では、そのような制御はされていないのか。

【事務局】

- ・ バスはそのような制御をされている都市も国内にあるが、市内の路面電車は、自動車と同じように、信号が赤になれば止まる。
- ・ ただ、路面電車専用の右折左折の信号が設置されている場所もある。

【塚本座長】

- ・ 他の委員の方からも是非ご意見を伺いたいと思う。佐藤委員はどうか。

【佐藤委員】

- ・ 施策として掲げられている内容については、盛り沢山で奥深い。特に方向性の1や2については、女性目線としても発言できることがある。
- ・ 個々の取組については、下村委員が言われていたとおり、広島らしいイメージをもう少し入れておいて頂きたい。
- ・ 例えば、取組一覧の「平和大通りのにぎわいづくり」の中で、「ひろしまドリミネーションにあわせたオープンカフェの設置」と書かれている。
- ・ ここで言うべきことではないかもしれないが、平和大通りのドリミネーションは、色合いなどで広島らしさを持ってきて、「こんな風にみんなが賛同してくれる」といったビジュアルイメージのようなものが欲しいと思う。
- ・ ドリミネーションは、確かに多くの人が集まってはいるが「洗練された」という言葉と「感性」といったものが、どういうイメージなのか分かりにくい。
- ・ 施策の方向性1と施策の方向性2については、にぎわいの創出の仕方。学生なのか、主婦なのか、誰にきて欲しいのかといったことの不足があるように感じる。
- ・ 例えば、オープンカフェにしても楽しそうに見えるのはうれしいが、イメージが違えば、来られる客層も全く変わってくる。
- ・ 施策の方向性2の「国内外から人を惹きつける広島ならではの魅力づくり」については、平和記念公園以外の魅力を、地元の方も含めて知らないと思う。
- ・ 子供や母親と一緒に、教育できるようなこと、細かいことであれば、学校での勉強や、社会見学などであるが、そうしたことを取組の中に入れ込めればと思う。
- ・ 何が一番魅力づくりに必要かといえば、共有もそうだが、協働や、共に何かを創ったり、共感していくことが非常に重要だと思うので、体験させるということも、今からは力をいれていくことも必要なのではと思う。

- ・ 何十年たっても変わらないものも多いので、そうした広島ならではの魅力づくりの時に、地元の方の力を取組の中に入れてたい。
- ・ この人たちに先導的な取組6はやってほしい、取組7については、このような人がやって欲しいといったターゲットを見極めても良いのかなと感じる。
- ・ 何十年も先のことのように、何十年も変わらないモノ、積み重ねてきているものが広島には多くある。
- ・ 例えば、灯籠流しは、世界中をみても、灯籠を流すだけで、あれだけ多くの人が集まる場所は広島の他で見たことがない。
- ・ このような広島の宝、あれだけは子供には見せておきたいといった広島市民ならではのモノや、市民の方が外から来た方に、あれだけは自慢できる、私は毎年これに行っているよと誇れるものを比治山公園にも作らなければいけないし、他の場所にも作らなければいけない。
- ・ 取組の中には、広島の今の宝を積み重ねていくもののイメージ、これをもっと積み重ねていこうといった具体的なもののイメージを私たちのような市民目線まで落とし込んでいただけたら、しっかりと分かる。
- ・ 施策の方向性の3や4については、便利になったら嬉しいので、男性にご意見を任せたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 資源を再認識して、いかにして活用していくかということと、「誰が」ということが重要だということですね。
- ・ 女性目線が出たので、山田先生お願いします。

【山田委員】

- ・ 感想だが、冒頭に広島広域都市圏と広島市の創生総合戦略についての質問をさせていただいたが、今回の資料ではすぐに理解ができないのでお伺いしたいが、この大きな施策の方向性の中に、資料1-2に記載されている広域都市圏発展ビジョンの計画の中で位置づけられている施策や、広域都市圏としての都心の機能を実現すべき都心の役割が施策の中に反映されているのか。
- ・ つまり、今回、広域都市圏の発展を見据えた都心づくりといったことが資料で出てきたが、やはりこの広島の都心は、広島市域の中心であり、また、広くは、広域都市圏の中核都市の中心である。
- ・ そうすれば、この創生総合戦略と広域都市圏発展ビジョンを実現させるべく都心のあり方といったことが別に求められているが、こうしたことが施策の方向性や施策の展開に含まれており、整合性が取られていると認識して良いのか。
- ・ 整合性が取れていないと、これは少し別の問題になってくるといった懸念があったので、質問させて頂いた。これが1点目。
- ・ もうひとつは、施策に関しては、盛り沢山で目移りするところはあるが、一つ気になることは、施策の方向性4-③「都心居住を支える環境づくり」である。

- ・ 先ほど高齢化の話をさせていただいたが、もちろん夢のある将来像を描くことも重要である一方で、確実に人口減少及び高齢化が進展していくであろう30年後の広島市において、この施策の方向性4-③「都心居住を支える環境づくり」は、やはり住んでいる人たちのことを考えると非常に重要であると思う。
- ・ この中で「地域コミュニティの活性化」とあるが、私は専門がコミュニティであるので、その観点から言えば、今や町内会の加入率がどんどんと低下していく中で、都心の地域コミュニティへの関与ということは、撤退というか、もはや不可能ではないかと思っている。
- ・ むしろ、そのようなイメージではなくて、一人暮らしの単身世帯や夫婦二人暮らしが安心して暮らせる生活支援といったことの方が、都心居住に関しては重要となってくるのではないかと思う。
- ・ それに関して、参考資料にある「都心居住を支える環境づくり」の取組をみると、ハード的なものが非常に多く、例えばこれまでも佐藤委員が女性目線や子育てといったことを随分と力説されてきたが、そのような分野からは、子育てとして「冒険遊び場事業」しかなくて、なんとなくハード的なものに偏っているのではないかといった嫌いがある。
- ・ 施策の方向性3-③「ユニバーサルデザインの推進」の取組である「福祉のまちづくりの推進（バリアフリー）」の中で、バリアフリーのことは書いてはあるが、むしろ施策の方向性4-③「都心居住を支える環境づくり」の中にも、「福祉のまちづくりの推進」といった要素を加えていただきたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。色々なレベルの話が一緒になっているので、分かりにくいのかなといった感想がある。
- ・ それでは、熊野委員にお伺いしたい。

【熊野委員】

- ・ 先ほど申し上げたことと重複するが、先日、丸の内界隈の開発を行っているデベロッパーの人と話をしたところ、現在、東京の丸の内界隈は、再開発がいろいろと進んでいるが、一番のニーズはBCP（Business continuity planning）であるとのことであった。
- ・ その方は、実は10年前にも広島に来られていた方であったので、今の広島はどうかといった話を伺ったが、その人のことを聞くと、駅の周辺は大きく変わったが、紙屋町・八丁堀界隈のこれまで広島のコアであった部分については全然変わっていない、といった感想をもらっていた。
- ・ 広島に住んでいる者として、少し淋しく感じた。
- ・ この中を見ても、取組として、紙屋町・八丁堀地区界隈の再開発を進めると書いてあるので、今後は、少し変わっていくことになるなといったイメージを持っている。
- ・ もう一つは、我々民間側から話をさせて頂くと、先ほどイノベーションといった話があったが、そのような創意工夫をこれからしていかなければならない時に、ハードルとなるのは規制の問題であると思う。

- ・ そうした声も多く出ているが、そうしたことにしっかりと向き合って進めて行かなければ上手く進んでいかないのではないかなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。それでは、谷村委員お願いします。

【谷村委員】

- ・ 皆様がおっしゃられていたことと変わりはないが、山田委員も言われていたように、30年後にどのような人口構成になっているのかということは気になることだと思う。
- ・ 佐藤委員も言われていたが、30年後の広島の都心のことを考えていかなければいけないということは、少し見えてきたかなと思う。
- ・ 先ほどの都心居住の話とあわせて、30年後にどのような人達がこの地域を支えているのかなと思う。
- ・ ハードについては非常によく書かれているが、そこで暮らして、支えていく人達のこと、外から人が来る時に、どのような人がお迎えをするのかということも、個別にということではなく、全体の話として少し入れていただきたいと思う。
- ・ そこに広島らしさ、こんなに盛り上がる場所はないということ盛り込めればと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。では、藤波委員お願いします。

【藤波委員】

- ・ 都心居住を支える環境づくりで高齢化が進んでいく中でどういう社会が必要かといった山田先生のご指摘の中で、確かに施策として取り組まれていることが少ないと感じる。
- ・ ひとつヒントになるのかなと思うのは、「クロネコヤマト」が、多摩ニュータウンで新しいサービスを進めている。
- ・ 多摩ニュータウンという地域はご存知のとおり、非常に高齢化が進んでいる。
- ・ そこにコミュニティ拠点を設定していて、主に2つのことを行っている。
- ・ 1つは、佐川急便と郵便局の荷物とクロネコヤマトの荷物をクロネコヤマトが1社で配送している。これによって、何度も配達員が行かなくても良いといったメリットや、何度も同じ人が伺うので、お客さんと親しくなり見回りもできる。また、配達員一人あたりの荷物の量を増やすことで、一人あたりの付加価値を増やし、雇用が維持できるといったビジネス的な側面もある。
- ・ もう一つは、そのコミュニティを生かして、家事サービスや、買い物支援などのサービスも行っている。
- ・ ヤマト運輸は、社内の組織に家事サポートをする部署を持っているので、そうしたものを活用しながら新しいコミュニティーサービスを提供している。
- ・ ポイントとなるのは、今までの行政の計画や取組は自助・共助が重要視されてきた。
- ・ これを過度に追及すると、皆がボランティアになりお金が回らない状況になってしまう。

- ・ 人口減少していく局面では、これまで自助・共助で済ませていたことに対して、逆にお金を回していける仕組みとして、経済活動として、誰かが担っていくということをしなければ、担い手が本当にいなくなってしまう。
- ・ この間、NHKで、人口減少をテーマにNHKスペシャルを放映していたが、島根県か岡山県のどちらか記憶が定かでないが、行政が補助金を出して、地域の中で助け合ってくださいといった仕組みを導入しているという。
- ・ やり方自体は上手いと思うが、中々持続的な状況ではないと思う。
- ・ みんなが高齢化していく中で、誰かがそれをビジネスとしてやってあげるよという人が出てくれば、ベンチャーとして立ち上がると考えている。
- ・ こうしたように、民間企業がビジネスとしてコミュニティーサービスを提供していくということも必要であると思う。

・

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。非常に刺激的なお話で、都心であったら、逆にやりやすいかもしれない。

【吉田委員】

- ・ 資料4の3ページの右下について、広島駅南口の再開発事業でBブロックも完成したが、やはり駅という意味では、広島が一番の「顔」となる場所なので、路面電車とバスターミナルを変えたほうが良いということでここに示してあると思う。
- ・ 1点だけ、現在、路面電車の駅前ルートの再整備として、高架が検討されているが、これが本当に広島らしい風景なのかといった議論もあってもよいのではないかな。
- ・ 先ほどの議論ではないが、路面電車が2階まで来る都市なんて他にはない都市だから、そんなことがあってもよいのではと思ってしまうが、「南口広場へ路面電車を高架で進入させる広場の再整備」と書かれている。
- ・ このように具体的には書かないで、「利便性の向上とにぎわい創出」のように書いて、具体的なことは、今後の検討としてもよいのではないかなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。これについて何か事務局から説明があるか。

【事務局】

- ・ 駅の南口広場の再整備については、所管は道路交通局で検討を行っているが、これまでずっと検討してきた中で、方向性として「路面電車を南口広場へ高架で進入させる」といったことが示され、既に設計等を進めている段階にあるので、そうした方向性で駅の玄関口の整備を行いたいと考えている。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。その他の委員の方で発言がある方はおられるか。
- ・ そろそろ時間も終わりに近づいたが、広島県の竹中局長から一言お願いする。

【竹中局長】

- ・ 本日は様々なご意見ありがとうございます。
- ・ なるほどと思うことが多くあったが、2点発言させて頂きたい。
- ・ 一つは、「広島らしさ」。これは初回から議論にでてきたが、難しいのは、「広島らしさとして行う施策」と、「施策としては一般的ではあるが、それを具体化していく中において、その土地らしさを出していくもの」の2つがあると思っている。
- ・ ただ、本日のご意見は、もう少し「らしさ」をだしても良いのではということだと思うので、少し考えていければと思う。
- ・ 例えば、全てをカープの赤とサンフレッチェの紫にしようということがあるかもしれない。
- ・ もう一つは、藤波委員のお話にあった「稼ぐ力」ということ。これは意見として非常に重要ではないかと思う。
- ・ 今回のプランの中にもいろいろと入れさせていただきたいと思うが、観光という面でもそうであるが、そこに住み、働く人が増える、またはビジネスとしても魅力的な場所となり、人が集まってくるし、新たなものが生まれてくる。
- ・ そうした観点が中核的な都市として、ライバルに対しても抜きに出るということであると思うので、もう少し考えていければと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。それでは宮原局長お願いする。

【宮原局長】

- ・ まずは、いろいろなご意見を出していただきありがとうございます。
- ・ 再度、頂いたご意見をもとに事務局で検討を進めたいと思う。
- ・ 私のほうでは、ご意見の中にもあったが、あまり「内向きになってはいけない」と思う。
- ・ 将来像や目標を議論していく中においても、「誰もが集える、にぎわいと交流のまち」ということで、サブタイトルも含めて市民だけでなく、より多くの方々を意識しているということ、きちんと言っていかなければいけないと思っている。
- ・ また、最近の状況として人口減少や高齢化といった話があったが、昔は人口が右肩上がり、札幌・広島にどんどん人口が増えていく、かたや現在は、人口は減るが、こうした札幌・広島のような地域は拠点性が高まっているのではないかと感じている。
- ・ こうした都市圏では、近年、土地の価格が上昇してきている。一時的な現象であるかもしれないが、今後の都市の構造ということを見てみると、ある意味別の動きというものが出てきているようにも感じる。
- ・ 先ほどからあるように、広島らしさを打ち出していける部分と、全国同じようなものを目指すけれど、やらなくてはならない部分とがある。
- ・ そういうものであっても必要なものは、他の都市と少しレベルが違うということを目指し、

こんなことをやっていくということで、若干の差別化を図っていく、尖った部分での都市の魅力アピールできるのではないかと考えている。

- ・ 施策の内容もソフトからハードまでということで、できる限りかき集めて、お示ししようと思ったが、いろいろな視点や切り口があるとは思いますが、この目標像に沿うもの、捨てるようなものという意味で、少し集約すると同時に、このイメージについても、この1枚概要をみると、将来どのようなものを目指しているのが頭に残って頂けるような、どのようなタイトルにするかも含めて、そうした点は事務局で考えていきたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ ここで欠席委員の意見をご紹介していただきたい。

【事務局】

- ・ 欠席されている3名方のご意見を紹介させていただきたい。
- ・ まず、伊藤委員のご意見であるが、施策の方向性1「中四国地方の中核都市にふさわしい空間づくり」について、先ほどもあったが、他都市の具体例や写真等のイメージを使う際には、なぜその写真等を使うのか、きちんとその意図が分かるようにして使ったらどうかということ。
- ・ それから、施策の方向性3「世界中から訪れるひとにやさしい交通環境づくり」について、駅周辺の歩行者ネットワークとして、ペDESTリアンデッキも必要であるが、都心全体での歩行者ネットワークが必要だと思うので、「都心であれば、どこでも自動車を気にすることなく、安心して歩ける」となれば良いといったご意見があった。
- ・ 加えて、例えば、西国街道を時間帯に応じて自動車を通さないというのはどうかといったご意見もあった。
- ・ また、野原委員のご意見であるが、インバウンド（外国人旅行者）に対して、何が本当のホスピタリティなのかを検討する必要があるということと、単なるサインや設備環境だけでなく、例えば、広島歴史性等を魅力として考える、そうしたことも必要ではないかといったご意見であった。
- ・ 平尾委員からは、施策の方向性2「国内外から人を惹きつける広島ならではの魅力づくり」について、紙屋町・八丁堀地区のエリアマネジメント活動は、具体的にいつからやるのかといった目途があると良いということ。
- ・ それから、広島ならではの魅力というのは、「川沿いの良さ」が魅力の一つだと思うので、川という資源をどう生かすかということで、別の目的を持って来てもらい、併せて川のよさ、美しさを感じてもらうのが良いということで、例えば、アイデアの例として、
 - ▶ 川沿いにマーケットを設ける。
 - ▶ 飲食、ファッション、アートなど川ごとにマーケットの特色を分けてもよい。こうしたものを社会実験として、やってみてはどうかといったご意見があった。
- ・ 自分が旅行者ならどう感じるかを考えながら、自分が行きたいと思えるような取組が必要であるといったご意見があった。

- また、施策の方向性3「世界中から訪れるひとにやさしい交通環境づくり」については、駐輪場が増えるのは良いことだと思うということと、都心においては、自動車よりも自転車が
多いほうが良いので、都心としてのイメージも良くなるのではないかといったご意見であ
った。
- 以前、「のりんさいくる」といった取組があったが、非常に良い取組だったと思う。現在は「び
ーすくる」をしているが、これもぜひ続けてほしいということで、広告媒体等を活用して採
算が立つ民間事業として長く続けることができればよいといったご意見であった。
- 広島駅南口広場について、先ほど意見としてあったが、2階の方に路面電車が上がった
ら、
一帯のイメージも当然変わってくるので、今後、街にとって大きな動きがある場合とい
うこ
とで、先ほどサッカースタジアムの話もあったが、その場所のイメージを描き直す必要も
出
てくるのではないかといったご意見もあった。
- 施策の方向性4「安全・安心で平和な生活を支える環境づくり」について、方向性2にお
け
る広島らしさである「平和」と意図するものが異なるものであるため、方向性は、「安全・
安
心な生活を支える環境づくり」であるため、平和という言葉は取っても良いのではない
か
と
いったご意見をいただいた。
- 参考資料2の「まちづくり交流サロン「都心のまちづくりをみんなで考えよう！」」につ
い
て、
先ほど、グループや地域の方が来ていただいたことを報告したが、そのように、市民が
自
ら、
都心の活性化について考え、議論したいと思うことが大事であるため、こうした場を
繰
り返
し設けることで、自分たちで考え、議論する機運、意識を育てることが必要である
と
い
った
ご意見をいただいた。
- 全体を通じて、良いまちづくりには、ピラミッド型で下から「行政が行うもの」、「
行
政と
民
間が協働で行うもの」、「民間が行うもの」のような概念が必要であるため、この
中
では、「
行
政と
民
間が協働で行うもの」が非常に重要であるということなので、アイデアとして紹介
し
た
川沿いのマーケットの事例は、まさに「行政と民間が協働で取り組むべき」では
な
い
か
と
い
った
ご意見もあった。

【塚本座長】

- ありがとうございます。
- 既に時間がきているが、実は座長ということで、自分の意見が言えないことに非常に
フ
ラ
ス
ト
レ
ー
ションがたまっているが、最後に少し話をさせていただきたいと思う。
- ここに至るまでに事務局と話をさせていただいたが、半年かかった要因は、いろいろあ
っ
た
ということをご承知いただきたい。
- この懇談会では、議論して合意をしていく部分と、行政がやることに対して、お墨付
き
を
与
えていくということは全く異なることだと思う。
- 行政が取り組んでいくことに対してはお任せをするが、この懇談会では、都心の活
性
化
を
何
故
して
い
く
のか
と
い
った
大きな目的や、そのために皆さんが共有できる大きな目標を持つ
と
い
う
こ
と
が
ぼ
ん
や
り
と
でも、決まっていくことだと思う。

- ・ それに対して、どのような方法で、このような仕組みがあるので上手くやっていきますよということは、我々は素人であるので、行政の方にきちんとやっていただくということ。
- ・ 今日の資料も、いろいろなレベルの話がざっと、載ってきたので、多分、目的として皆が共有すべきものと、手段としてあれば良いものが相当混在しているということが、今日の皆様のご意見をお聞きしても相当感じた。
- ・ このビジョンとして何をこの場で合意していくかについて、今後は細かい話も出てくると思うが、是非、我々のレベルで議論して、これが良いのではといった部分と、それに対して、どのように具体化していくか、役割についても同じであると思うが、きちんと分けながらやっていただきたい。
- ・ 30年先ということなので、市民の方がこのようになったら良いといったものが出来てくれば良いと思う。この辺りについては、座長として、しっかりと市の方と県の方と議論させていただく。
- ・ 一つ最初に確認をさせていただいたことであるが、目標年次のこと。
- ・ 現在も様々な意見や計画が動いている中で、この計画や構想で何をを目指すのか。これは、こうした計画の先を飛び越えた部分で何をを目指すのかということであると思う。
- ・ そのため、あまり「明日やる、明後日やること」ということをこの中に盛り込みすぎることは、逆に足を縛ったり、発想を狭めてしまうといったことも考えられる。
- ・ この場では、「30年先の自分はいないけれど、子や孫が喜ぶような広島にしたぞ!」といった足跡を是非残したいと思う。
- ・ こうした所へと議論や意見が終焉していくとよいのではないかということ、これまでも発言してきたし、今日の皆様の意見をお伺いしても強く感じたところである。
- ・ 次の懇談会、その次の懇談会もあると思うので、自分の息子や孫が聞いても夢があるねといった議論ができるように、事務局には努力いただければと思う。
- ・ 我々も、そのための議論をしていきたいと思う。
- ・ 時間が過ぎたので、この辺りで今後のスケジュール等を含めてということで、事務局にお返しをする。

【事務局】

- ・ 本日は、貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。
- ・ 1点、先ほど座長から質問を頂いた広島市基本構想の件で事務局から補足させていただく。
- ・ 昭和45年3月に都市像である「国際平和文化都市」を掲げているが、これについては目標年次はなく、都市の理念として掲げさせていただいている。
- ・ この基本構想に基づき基本計画を10年ごとに策定しており、現在は平成21年度から平成32年までを計画期間とする第五次基本計画に基づき、いろいろな取組を行っている。
- ・ 本日、頂いたご意見等を参考に、事務局で都心活性化プラン（案）を検討する。
- ・ 次回の日程は、別途、調整・連絡させていただく。
- ・ 以上をもって、第5回懇談会を閉会する。ありがとうございました。